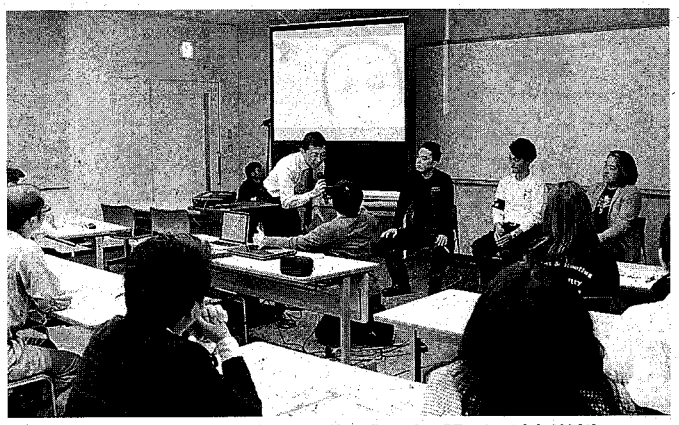
者や支援者らが試行錯誤している。鹿児島市内でもイベントを開催。「三島ファンを増やす火付け役に」と期待を込める。

SNSの災害活用学ぶ

J2熊本・巻選手も参加



テレビ電話で出演した巻誠一郎選手に被災地の現状を尋ねる参加者ら
＝鹿児島市のかごしま県民交流センター

災害時にSNS（会員制交流サイト）を活用する方法を学ぶ勉強会が17日、鹿児島市のかごしま県民交流センターであった。熊本地震で被災した、サッカーJ2ロアッソ熊本の巻誠一郎選手＝熊本県出身＝がLINE（ライン）のテレビ電話を使って参加し、「高齢者支援や子どもの心理ケアをできる人が足りていない」と支援を呼び掛けた。

企業のホームページ製作などを手掛けるエージェントプラス（福岡市）などの主催で、約20人が受講した。同社の中島仁志さん(36)は、LINEやフェイスブックを使った災害時の安否確認方法を紹介。「熊本地震では、学校や家族間でSNSが使われた。お互いを励まし、被災地の状況を写真で伝えるのにも役立った」と説明した。

避難所を巡り支援を続けている巻選手は、隣県の鹿児島、福岡両県の素早い支援に感謝し、「被災者と支援者の情報共有がうまくいけば、より効率良く物資を振り分けられる」と話した。（廣庭直之）

熊本地震

市職員の報告

必要な物を迅速に届ける難しさ痛感

■危機管理課
稲森 俊文さん(41)

地震発生から約2週間後、熊本県宇城市の住宅の片付けをするボランティアに同僚4人と従事した。鹿児島市で有事が起きた際、対策本部の中核を担う課の職員として、市役所や避難所も視察した。

宇城市職員から「発生直後はとにかく水や食料が足らず、プッシュ型（自治体の要請を待たずに必要な品目や量を推測して届ける方法）で送ってほしかった」との話を聞いた。災害の種類や大きさによって、必要とされる物資の質は変わる。「必要な物を迅速に届ける難しさを痛感した」という。

担当は防災業務。「防災に力を入れると共に、災害の後にいかに適切な対応ができるのか、あらためて考える機会になった」と話した。

（高野寛子）
＝随時掲載

世界遺産生かす都市づくり紹介

スペイン大使館員

駐日スペイン大使館のサンティアゴ・エレロ文化担当参事官(43)が14日、「スペインの世界遺産の保護と持続可能な観光」と題して鹿児島市の鹿児島テレビ（KTS）で講演した。鹿児島スペイン協会（川﨑俊司会長）が開いた。

スペインがイタリアと中国に次ぐ世界遺産数を誇ることを踏まえ、エレロ参事官は観光客が海外から年間約6500万人にも達する現状や観光戦略などを紹介。世界遺産を生かした都市づくりの実践例など挙げ、「地元住民を巻き込むことが、保存活用策を練っていく上で大切」と語った。

スペインの世界遺産を生かした観光戦略について語るサンティアゴ・エレロ・駐日スペイン大使館文化担当参事官
＝鹿児島市紫原6丁目

垂水市の会社員紺屋絵里子さん(32)は「世界遺産や素晴らしい景観などの話を聞き、ますます行きたくなった」と満足げだった。

（山田天真）

地元飲食店と大学生が共同開発したハンバーガーを買い求める来場者＝鹿児島市の騎射場公園

（藤崎優祐）

◆消費者月間記念講演会　30日午前10時～11時半、鹿児島市鴨池2丁目の市消費生活センター研修室。鹿児島国際大学教授の山本晃正氏が「悪徳商法を見抜く力」の題で講演する。募集は50人（多数抽選）。対象は市内在住者。無料。23日必着ではがきかEメール、ファクスで申し込む。同センター＝099(258)3611、ファクス同(258)3712、メールsyouhi@city.kagoshima.lg.jp。